

環境影響評価審査書

ささしまライブ24地区「（仮称）グローバルゲート」建設事業に係る環境影響評価準備書についての名古屋市環境影響評価条例第22条第1項の規定に基づく環境の保全の見地からの意見は、次のとおりです。

平成22年1月19日

名古屋市長 河 村 た か し

ささしまライブ 24 地区「（仮称）グローバルゲート」建設事業に係る環境影響評価の実施にあたっては、当該事業に係る環境影響評価準備書に記載されている内容を適正に実施するとともに、環境影響評価書の作成にあたり、以下の事項について対応が必要です。

1 予測・評価等に関する事項

(1) 全般的事項

ア 工事中、存在・供用時において、「環境の保全のための措置」（以下、「環境保全措置」という。）に記載した環境負荷の抑制策や環境影響を低減するための対策等について、ささしまライブ 24 地区の関係者、関係機関等とも連携し、積極的に実施すること、特に、「予測の前提とした措置」については、確実に実施すること。

イ 評価にあたっては、環境に及ぼす影響の程度について、画一的な表現ではなく、例えば、周辺の環境への影響が軽微なのか、著しい影響を及ぼさない程度なのか、あるいは、環境負荷の増加を抑制しているのかなど、きめ細かく表現すること。

(2) 大気質・騒音に共通する事項

ア 建設機械の稼働による大気質への影響を低減するため、「予測の前提とした措置」として、導入可能な二次排出ガス対策型の建設機械を使用すること等により、周辺の環境に及ぼす影響は低減されるものと評価している。また、同様に、騒音への影響を低減するため、低騒音型の建設機械を使用すること等により影響は低減されるものと評価している。しかし、これらの措置を実施することによる環境への影響の低減効果がどの程度であるか明らかにされていないため、その検討結果を記載すること。

イ 工事関係車両の走行による影響を低減するため、「予測の前提とした措置」として、特定の道路に工事関係車両が集中しないように、出入口及び走行ルート分散化を図るとしている。この措置を講ずることは、事業予定地近傍道路の渋滞対策、周辺道路の交通量の平準化等に寄与する措置ではあるが、工事関係車両の総台数を削減するものではなく、環境影響評価準備書において予測場所として選定した6地点における大気質、騒音の影響を必ずしも低減するものではない。このため、評価にあたり、「予測の前提とした措置」として織り込むことは適切ではないと考えられることから、その内容を見直すこと。

ウ 新建築物関連車両の走行による影響を低減するため、「予測の前提とした措置」として、駐車場出入口を事業予定地に複数設けることにより、新建築物関連車両の出入りについて、周辺の交通事情に配慮するとしている。この、複数の出入口を設けることは、事業予定地近傍道路の渋滞対策等に寄与する措置ではあるが、新建築物関連車両の総台数の抑制に直接つながるものではなく、環境影響評価準備書において予測場所として選定した6地点における大気質、騒音の影響を必ずしも低減するものではない。このため、評価にあたり、「予測の前提とした措置」として織り込むことは適切ではないと考えられることから、その内容を見直すこと。

エ 名古屋都市計画道路3・3・14号椿町線（以下、「椿町線」という。）の開通後は、新建築物関連車両の一部が椿町線を走行すると想定していることから、椿町線の環境影響評価書の内容を踏まえ、その影響について予測し、必要に応じ、環境保全措置を講じること。

(3) 大気質

ア 工事関係車両の走行に伴う大気質への影響（二酸化窒素濃度）は、環境基準の値を下回るものの名古屋市の環境目標値を上回る予測結果となっていることについて、評価にあたり、本事業による寄与分を明らかにした上で、事業者としてどのような措置を講じていくか記載すること。

イ 工事関係車両の走行に伴う大気質への影響と建設機械の稼働に伴う大気質への影響について、環境影響評価準備書では本編において、それぞれ個別に予測・評価を行うとともに、資料編において、工事関係車両に係る予測場所における建設機械の稼働による影響を考慮した重合予測の結果やその評

価等を記載している。実際に周辺環境に及ぼす影響はこれらが同時に生じるものであるから、この重合結果についても、本編に記載すること。

(4) 騒音

ア 工事関係車両の走行による道路交通騒音は、一部の予測場所において環境基準の値を上回る予測結果となっていることについて、評価にあたり、本事業による寄与分を明らかにした上で、事業者としてどのような措置を講じていくか記載すること。

イ 工事関係車両の走行に伴う騒音と建設機械の稼働に伴う騒音について、それぞれ個別に予測・評価を行っているが、実際に周辺環境に及ぼす影響はこれらが同時に生じるものであるから、工事中の騒音について両者を重合した影響についても評価するとともに、施工にあたり十分留意すること。

(5) 振動

建設機械の稼働に伴う振動について、掘削・地下躯体工事の段階において、あおなみ線ささしまライブ駅方向で高い予測結果を示している。施工にあたり、振動の影響に十分留意すること。

(6) 土壌

土壌汚染に係る現地調査結果によると、事業予定地の敷地境界付近において汚染が確認されていることから、除去等の対策を確実に実施すること。

(7) 景観

建築物低層部分の屋外広告等については、良好な地域景観の形成を阻害することがないように配慮するとともに、地区全体の整備方針等を踏まえ、今後、具体的なデザイン、色彩等の検討を進めること。

(8) 廃棄物等

植栽の維持管理などで発生する剪定枝等について、リサイクルに努めること。

(9) 温室効果ガス等

供用時の温室効果ガス排出量を削減するため、「予測の前提とした措置」として、事業予定地外の地域冷暖房施設から熱源供給を受けることにより、温室効果ガスの排出による環境負荷は低減すると評価している。この低減の効果が

どの程度であるのか、環境影響評価準備書では資料編に定量的検証が記載されているが、この検討結果については本編に記載すること。

(10) 風害

ア 年間を通した卓越風向である WNW と SSE の風について、風洞実験により求めた新建築物の出現による気流の向き（風向）の変化と、名古屋地方気象台における観測高さの風速を基準とした建設前・後の風速比の変化を図示しているが、予測・評価の手法等をわかりやすく説明するとともに、実際の風環境の変化がどの程度であるか把握できるように調査、予測結果等を整理すること。

イ 風洞実験による予測を行ったところ、「予測の前提とした措置」として植栽を施す条件下において、風環境評価尺度に基づくランク 3 を超える地点が出現しない結果が示されている。しかし、このことをもって、周辺の風環境に及ぼす影響は低減されるものと評価することは必ずしも適切ではないと考えられることから、その内容を見直すこと。

なお、低減の効果がどの程度であるのか、環境影響評価準備書では資料編にその実験結果が記載されているが、この検討結果については本編に記載すること。

(11) 電波障害

ア テレビジョン放送電波の受信に及ぼす影響については、地上アナログ放送は、高層棟の立ち上げ時期を地上デジタル放送の完全移行後とすることで影響を回避していること、また、地上デジタル放送は、今後、必要な対策を講ずることにより影響の回避に努めることから、評価の内容を見直すこと。さらに、予測し得ない影響が生じた場合の対応についても、評価に記載すること。

イ 電波障害の影響は広範囲に及ぶことが想定されることから、工事中及び存在・供用時における苦情等の受付窓口について十分な周知を行い、適切に対応すること。

(12) 安全性

現地調査結果の取りまとめや交通量の推計において、自転車交通量を歩行者交通量に含めて記載しているが、自転車そのものの影響が検討されていない。このため、この地域の自転車利用の現況や地区全体の将来計画も考慮し、本事

業による自転車の増加に伴う自動車や歩行者との交錯に係る交通安全への影響についても予測し、その結果を記載すること。

また、事業計画の具体化にあたり、十分な規模の駐輪場等の施設の確保に努めること。

(13) 緑地等

新設する緑地等の植栽について複数の樹種が計画されているが、東海地域の在来種（郷土種）を優先するなど、この地域の潜在植生にも配慮して、今後、具体的な緑化計画を作成すること。

2 事後調査に関する事項

(1) 新建築物関連車両の走行による影響の程度を把握するため、大気質、騒音及び安全性について、環境影響評価準備書においては、予測場所と同じ地点で調査することとしているが、椿町線開通後の影響を把握するため、椿町線においても必要な調査を実施すること。

(2) 工事中における温室効果ガス排出量を削減するため、省エネルギー性能の高い建設機械の選定等のさまざまな環境保全措置を講じるとしている。これらの環境保全措置の実施による温室効果ガス排出量の削減効果の知見の集積が十分ではないことから、今後、工事の実施にあたり、実際にどの程度、温室効果ガスが排出されたか、また、環境保全措置の実施による温室効果ガス排出量の削減効果はどの程度なのか把握に努めること。

3 その他

(1) 本編の記載事項について資料編を参照する際、各環境項目ごとの大分類で指示されているが、具体的内容に応じて参照ページを適切に表示するなど、図書の編集にあたり工夫すること。

(2) 環境影響評価準備書の修正に伴い、予測・評価等がどのように変わったのか明らかにし、市民にわかりやすい図書となるよう十分に配慮すること。